

自炊

医学部医学科自然科学教室（化学） 東元 祐一郎

「自炊」の経験がありますか？と尋ねられた時、食事を自分でつくるという意味を真っ先に想像するのは古い世代の人らしい。実際、google 検索で、「自炊」と入れると、食事とは程遠い内容が列挙されることに気付く。今どき流行りの「自炊」とは、書籍や雑誌を自ら裁断し、スキャナで読み込んでデジタルデータに変換することを言うらしい。自らデータを吸い込む様をとらえて「自炊」と呼ばれるようになったという。実際に自分も流行りの「自炊」を行ったことがあるが、初めから自炊する目的で購入した本とはいえ、手元に届いたばかりの真新しい本を、いきなり表紙をバリバリはがし、ページを次から次に裁断していく行為は、恐ろしく野蛮で、正気の沙汰ではないように感じる。とはいえ、電子化された本は嵩張らず持ち運びに便利だけでなく、OCR（光学文字認識）処理をして検索可能なファイルに変換することで、使い勝手が格段にアップする。目的のキーワードが数十冊ある本（ファイル）の中から瞬時にピックアップされるようすを目の当たりにすると、ただの野蛮な行為ではなかったのだと納得する。当然のことながら、ここに書いた「自炊」行為は、自分で購入した本を私的複製、利用するものであるから、著作権法で認められていることになる。一方、この「自炊」行為を、顧客の依頼で有償で行う「自炊代行サービス」は、今年の3月に著作権法上の複製権侵害に当たることが最高裁で確定した。電子ブックリーダーの普及に伴って、自炊を巡る問題は、いろいろな広がりを見せるのではないかと思う。違法か合法かが微妙な問題も多く今後の動向に注意が必要だろう。

近頃、学生の間で電子化された教科書を片手に勉強する姿をよく見かけるようになった。これには今のところ賛否両論があると思われるが、電子辞書が普及しはじめた頃、辞書はやっぱり紙媒体でなければいけないという意見が圧倒的に多かったように思う。今もなお、電子辞書派と紙の辞書派に意見が分かれているとは思いますが、当時よりは電子辞書容認派が格段に増えているように思う。今の学生は、その電子辞書を当たり前のように使って勉強してきた世代でもある。教科書も数年後には電子教科書が当たり前のような時代になるのかもしれない。